

板橋区立上板橋第四小学校 令和8年度 学校経営方針

Motivation
Inclusion
Relation
Activation
Innovation



めざす学校像 「子どもたちが、学ぶ楽しさを感じることでできる学校」

教育目標

生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる、民主的で持続可能な社会の創り手をみんなで育む。

自ら考え創り出す子

予測困難な社会を生き抜くために、答えのない課題に向き合い、よりよい考えを生み出していく子を育てる。

認め合ってつながる子

自分を大切にするとともに、それぞれの多様性も大切に、互いに協力しながら、社会に貢献できる子を育てる。

しなやかにのびゆく子

変化に対応できる健康な体と柔軟な心を持ち、自分らしく生きるために前向きに努力する子を育てる。

教員の育成・働き方改革の推進

- ～「資質能力の向上」と「良好な職場環境」の構築～
- 教員の働き方改革は、教員が心身ともに健康で、児童に向き合うためであることの共通理解を図る。
- 教科担任制や交換授業を導入し、多面的な指導と教員の負担軽減を両立させる。
- 会議の精選と時間の厳守を徹底し、教材研究や児童と向き合う時間を保障する。
- 若手教員への精神面・技術面でのサポート体制を整え、人材育成を強化する。

保幼小接続・小中一貫教育の推進

～「自治的能力」の向上と「郷土愛」の育成～

- 縦割り班活動や児童主体の行事を通じた交流活動により、自治的能力の向上を図る。
- 「学級活動」を重視し、合意形成やルールメイキングに取り組む。
- 地域の方々との交流により板橋区のよさを体感し、「これからの板橋を語る子」を育てる。
- 「M34学びのエリア」として、小中9年間の系統性・継続性を踏まえた教育活動を実践する。

安心・安全に学べる居場所の充実

～「誰一人取り残さない」きめ細やかな支援～

- 情報を迅速に共有し、常態的・先行的指導と即応的・継続的指導の両面から、児童の健全育成を目指す。
- 「生命（いのち）の安全教育」を発達段階に応じて実施し、自分を守る力を育てる。
- 防災教育を推進し、自ら危険を予測・回避できる児童を育成する。
- スクールカウンセラー等と連携し、不登校児童への登校支援と心のケアを充実させる。

多様な教育的ニーズへの対応

～「個に応じた合理的な配慮」の提供～

- 校内委員会を核とし、特別支援教育コーディネーターを中心に支援体制を整える。
- 「個別指導計画」「学校生活支援シート」に基づき、一人一人の特性に応じた学習面・生活面での配慮を行う。
- 一人一台端末を活用したオンライン支援により、非常時でも学びを止めない環境を整える。

確かな学力の育成

～「わかる、できる、楽しい授業」の実践～

- 児童の心を揺さぶる授業を実践し、学ぶ楽しさを体得させる。
- 基礎・基本の定着を図り、主体的に学ぶ意欲を向上させる。
- 「読み解く力」の育成を全教科の学習過程に取り入れる。
- 「板橋区授業スタンダードS」を実践し、発達段階に応じた自己調整学習を推進する。
- プロセスを重視した探究的な学習、体験的な活動により、STEAM教育の基礎を培う。
- 一人一台端末を効果的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する。
- 国際理解教育を推進し、多様性を受け入れ尊重する心を育てる。

豊かな心と健やかな体の育成

～「規律ある生活」と

「自分と他者を大切にできる心」の醸成～

- 全校体制での生活指導を確立し、豊かな人間関係と規範意識を育む。
- いじめの早期発見・早期対応を組織的に行うとともに、児童に適切な援助希求行動を促す。
- 「栄養・運動・休養（健康三原則）」をバランスよく指導し、目標をもった体力向上を図る。
- 「考え議論する道徳」を実践し、共生社会の実現に向けた人権感覚を養う。

保護者・地域との協力・連携の推進

～「開かれた学校」の推進～

- 学校・家庭・地域・関係機関がコミュニティ・スクール委員会及び学校支援地域本部を核として連携する。
- コミュニティ・スクール委員会の熟議を生かした学校運営を行う。